

グローバルな感覚を育む機会の創出に向けた アドバイザリーボード

令和 8 年 7 月 15 日（水）

第 4 回

委員

氏 名	所 属
秋田 喜代美	学習院大学文学部 教授、東京大学 名誉教授
ウスビ・サコ	東京都公立大学法人 理事（国際担当）
内田 千春	東洋大学福祉社会デザイン学部 教授
荻野 勉	開智国際日本語学校 校長
柴山 真琴	大妻女子大学家政学部 教授
林 礼子	国際資本市場協会 理事
藤田 保	上智大学言語教育研究センター 教授、センター長
モハメド・オマル・アブディン	参天製薬株式会社 基本理念・サステナビリティ本部 基本理念・CSV 推進部 スペシャリスト、東洋大学国際共生社会研究センター 客員研究員

（五十音順、敬称略）

本日のテーマ

**学齢期における学校外での国際感覚を
育むための取組**

- 学齢期における学校外の取組について、6つの視点・方向性から具体案を検討

意義・目標

①本取組の 役割

- 評価・成績を伴わず、**子供の自主性・主体性により、多様な文化に触れる機会**
- **学校や地域などの状況によらず、豊かな国際感覚を涵養できる機会**

②本取組により 育んでいく力

- 国際感覚を育む基盤としての**日本の文化への理解**や**自己のアイデンティティ**
- 多様な価値観や文化を受け入れ、**一人ひとりを尊重できる感覚**
- **自らの考えや意思**を持ち、**多文化の中でも協働していこうとする力**

内容・質

③成長発達 段階に応じた 取組内容

- 成長発達段階に応じ、**気づき・親しみから理解・探究へと国際感覚の涵養を深める取組**
- **異文化に触れる取組から相互理解を育む取組まで、成長発達段階に応じた幅広い体験**

④取組の 質の確保

- **幼児期からの経験の連続性**をもたせる
- **楽しめる体験、達成感を得られる体験の積み重ね**を目指す
- 子供の経験がより良くなるように、**周りの大人による適切なサポートやファシリテーション**

仕組・体制

⑤多くの子供への機会提供

- 海外派遣に加え、国内において対面やオンラインで多様な人々との交流等も活用し、より多くの子供が参加できる機会
- 区市町村による、子供の身近な場所での体験機会の提供

⑥東京の地域資源の活用

- 子供たちが多文化・多様な人々に触れられるよう、多様な人材・組織等の協力を得ること
- 各地域の特色を生かした取組の展開

参考資料

【参考】都における学齢期の主な取組(学校関係)

「令和7年度教育庁主要事務事業の概要」より作成

1 小学校における外国語教育の充実

(1)外国語に触れる機会の創出

東京都内の公立小学校において英語が堪能なネイティブ人材を活用し、児童とともに授業に参加したり、休み時間や放課後に遊んだりする中で、場面に応じた英語による自然なやり取りを行うことにより、児童の英語を介したコミュニケーション能力の向上及び国際理解教育の推進を図る。

2 中学校における外国語教育の充実

(1)英語「話すこと」の評価を行う中学校英語スピーキングテストの実施

中学校における英語4技能育成に向けた英語「話すこと」の指導の充実等を目的とし、都内公立中学校等第3学年全生徒を対象に、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J YEAR 3）を実施するとともに、都立高校入学者選抜において、その結果を活用する。

また、第1・2学年全生徒を対象に、英語のスピーキング力を測るテスト（ESAT-J YEAR 1、ESAT-J YEAR 2）を実施し到達度を評価することで、教員による指導改善や生徒の学習意欲の向上を図る。

3 授業で学んだ英語を活用する機会の充実

(1)「TOKYO GLOBAL GATEWAY（BLUE OCEAN・GREEN SPRINGS）」の運営支援

ア 施設の運営を行う民間事業者と連携しながら、利用者の意見等を踏まえてプログラム内容の改善を行う。

イ 事業者と連携し、施設の魅力や活用例等を分かりやすく広報すること等により、都立学校や区市町村立学校をはじめ、私立学校や都外の学校等による一層の利用促進を図る。

(2)島しょ地域におけるバーチャルTGGの提供

島しょ地域の児童・生徒が、学校にいながらTOKYO GLOBAL GATEWAY（TGG）での実践的でグローバルな英語学習を体験できるよう、VR技術を活用したバーチャルによるTGGの特別プログラムを提供していく。

【参考】都における学齢期の主な取組(学校関係)

「令和7年度教育庁主要事務事業の概要」より作成

4 国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成の充実

(1) TOKYO ENGLISH CHANNEL 教材の作成・イベントの実施

いつでもどこでも生きた英語に触れられるウェブサイトTOKYO ENGLISH CHANNELを運営し、幼児期から高校生まで、子供たちが自らの興味・関心や英語力に応じて主体的に学べるよう、日常生活の場面を通して英語に親しむものから、アートや最先端研究を学ぶものまで多様な動画教材を提供する。

また、都内と海外の生徒が集い、海外の大学等の講座を受けるほか、スポーツ、文化、SDGs 等様々なテーマについてオンライン上で議論する場を設定し、児童・生徒が英語を主体的に学び、使う機会を創出する。

(2) Tokyo GLOBAL Student Navi

外国語学習において有用な情報やグローバル人材育成に係る施策等の紹介をワンストップで提供するWEBサイトを運営し、施策についての認知度を高め、児童・生徒、都民の積極的な学びを喚起する。

5 学校における国際交流への支援

(1) 都立学校における海外との学校間交流の拡充

海外教育機関等との覚書に基づく連携や、各校のこれまでの国際交流の実績、「次世代リーダー育成道場」等の事業実績、後述する国際交流コンシェルジュの活用等により、都立学校における海外との学校間交流を拡充する。

(2) 国際交流コンシェルジュの運営

交流候補先（海外の学校等）の情報の一元化や、学校からの相談対応等を行う国際交流コンシェルジュを引き続き運営し、各学校のニーズに応じて多様な国際交流が実現できるよう、きめ細かな支援を行う。

一般社団法人 プロジェクト希望 代表理事

平井 一夫 様

(テーマ)

- 学齢期の海外でのご経験や諸外国の文化に触れる中で感じたこと
- その経験がその後のグローバルなご活躍や現在の活動にどのようなにつながっているか
- ご自身の子供の体験機会創出に向けた活動を踏まえ、子供の国際感覚を育む上で、学齢期のどのような経験が将来に活きると考えるか
- その他

論点

- 学齢期にふさわしい「国際感覚を育むための取組」として、**具体的にどのような取組例が想定されるか。**
- 「これまでの議論を踏まえた学齢期における学校外の実践の方向性（たたき台）」をもとに、**取組の具体化に向けて、都が果たすべき役割や注力すべきポイントは何か。**